

令和4年度事業報告

(令和 4 年 4 月 1 日－令和 5 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (令和5年3月31日)

(1) 名誉会員

令和 4 年 3 月 31 日会員数	4 名	
名誉会員現在数	7 名	(3 名増)

(2) 正会員

令和 4 年 3 月 31 日会員数	985 名	
令和 4 年度新入会員数	59 名	
令和 4 年度退会者数	42 名	
内訳	希望退会者	41 名
	物故者	1 名
正会員現在数	1002 名	(17 名増)

(3) 維持会員

令和 4 年 3 月 31 日維持会員数	97 社	
令和 4 年度入会社数	1 社	
令和 4 年度退会社数	2 社	
維持会員現在数	96 社	(1 社減)

II. 第 69 回通常総会

開催年月日： 令和 4 年 5 月 19 日

開催場所： 仙台国際センター

III. 理事会、理事・評議員懇談会

(1) 理事会 4回開催

- ① 第 1 回 開催年月日： 令和 4 年 4 月 21 日
開催場所： オンライン開催
- ② 第 2 回 開催年月日： 令和 4 年 5 月 19 日
開催場所： 仙台国際センター
- ③ 第 3 回 開催年月日： 令和 4 年 11 月 11 日
開催場所： 実験動物中央研究所
- ④ 第 4 回 開催年月日： 令和 5 年 3 月 7 日
開催場所： オンライン開催

(2) 理事・評議員懇談会 1回開催

開催年月日： 令和 4 年 5 月 17 日

開催場所： 仙台国際センター

IV. 定期学術集会の開催

第 69 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 令和 4 年 5 月 18 日（水）～20 日（金）
 会 場： 仙台国際センター
 会 長： 三好一郎（東北大学大学院医学研究科）
 参加者： 1,014 人

V. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、公開した。

発行年月日	巻	号	備 考
2022 年 4 月 1 日	71	2	
2022 年 7 月 1 日	71	3	
2022 年 8 月 1 日	71	Supplement	Proceedings of the 69th JALAS Conference
2022 年 10 月 1 日	71	4	
2023 年 1 月 1 日	72	1	

VI. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 名誉会員記を授与した。

名誉会員 (3 名)
 浦野 徹 (生理学研究所)
 芹川 忠夫 (京都大学)
 八神 健一 (筑波大学)

(2) 令和 4 年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (3 名)

大和田 一雄 会員 (岡山理科大学)
 局 博一 会員 (東京大学)
 松本 清司 元会員 (信州大学)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

庫本 高志 会員 (東京農業大学)
 「疾患モデルラットの原因遺伝子同定研究と新たな遺伝子機能の発見」

3) 奨励賞 (2 名)

Mark Joseph Maranan Desamero 会員 (フィリピン大学)
 「疾患モデルマウスを用いた有用農産物の *in vivo* 機能評価」
 村山 正承 会員 (関西医科大学)
 「疾患モデルマウスを用いた神経変性・免疫疾患の発症機構の解明および治療薬・治療法開発」

4) 2021 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1 編)

今井 啓之、津田 宗一郎、岩森 督子、加納 聖、日下部 健、小野 悦郎

Establishment of a novel method for the production of chimeric mouse embryos using water-in-oil droplets

「オールドロップレットを用いたマウスキメラ胚の作出法の確立」

5) 第69回総会 優秀発表賞

嶋田 圭祐、Park Soojin、宮田 治彦、Zhifeng Yu、諸星 茜、大浦 聖矢、
Martin M. Matzuk、伊川 正人

「ARMC12はTBC1D21と協働してミトコンドリア鞘形成を可能にする」

村田 知弥、大徳 陽子、水野 聖哉、杉山 文博

「in vivo BioIDの確立と新規うつ様行動制御因子の同定」

吉見 理子、金子 麻里、阿部 高也、白石 亜紀、井上 健一、古田 泰秀、清成 寛

「ゲノム編集による遺伝子改変有袋類の作製」

(3) 2021 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2021 年受賞者 (4 名)

インドネシア : Dr. Hery Kristiana
フィリピン : Dr. Maria Llaine J. Callanta
スリランカ : Ms. Risfa Samanudeen
タイ : Mr. Theerachat Kampaengsri

(4) 令和 5年度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (2 名)

喜多 正和 会員 (京都府立医科大学)
高倉 彰 会員 (実験動物中央研究所)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

久和 茂 会員 (東京大学)

「マウス肝炎ウイルスのマウス個体の感染防御機構およびマウス個体間での伝播に関する研究」

3) 奨励賞 (1 名)

吉沢 隆浩 会員 (信州大学)

「筋拘縮型エーラスダンロス症候群の疾患モデル動物の開発と解析」

4) 2022 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (3 編)

川上 浩平、松尾 裕之、梶谷 尚世、山田 高也、松本 健一

Comparison of survival rates in four inbred mouse strains under different housing conditions: effects of environmental enrichment

「4系統の近交系マウスにおける異なる居住条件下での生存率の比較：環境エンリッチメントの影響」

マクシェヴァ ユリア、鄭 琇絢、秋津 葵、前田 菜摘、丸橋 拓海、葉 曉琪、
海部 知則、西城 忍、孫 海陽、韓 偉、唐 策、岩倉 洋一郎

The C-type lectin receptor Clec1A plays an important role in the development of experimental autoimmune encephalomyelitis by enhancing antigen presenting ability of dendritic cells and inducing inflammatory cytokine IL-17

「C型レクチン受容体Clec1Aは、樹状細胞の抗原提示能を高めるとともに炎症性サイトカインIL-17を誘導することにより、実験的自己免疫性脳脊髄炎の発症に重要な役割を果たしている」

大野 民生、宮坂 勇輝、吉田 勘太、小林 美里、堀尾 文彦、横井 伯英、
水野 正司、池上 博司

A novel model mouse for type 2 diabetes mellitus with early onset and persistent hyperglycemia

「早期発症し持続的高血糖を示す新たな2型糖尿病モデルマウス」

(5) 2022 年日本実験動物学会国際賞を選考した。

2022 年受賞者 (4 名)

中国	: Ms. Xiaoliang Jiang
台湾	: Dr. Yu-Wen Liu
韓国	: Mr. Jae-Hun Ahn
インドネシア	: Dr. Ahmad Kurniawan

VII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

VIII. 動物実験に関する外部検証

令和 4 年度動物実験に関する外部検証事業として 36 機関（国立大学 9 機関、公私立大学 23 機関、文部科学省所轄外 4 機関）の外部検証を実施した。（外部検証委員会担当）

IX. 外部検証のための人材育成

文部科学省のナショナルバイオリソースプロジェクト「外部検証推進のための人材の育成と活用」の課題を推進した。国動協、公私動協及び日本実験動物学会から推薦された外部検証専門員候補者に対して外部検証促進のための人材育成講習会を実施し、調査随行の課程を修了した7名（令和3年度5名、令和4年度2名）を専門員として認定した。（人材育成委員会担当）

X. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続した。
- (4) 韓国実験動物学会（KALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）など実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

XI. その他

- (1) 令和 4 年度維持会員懇談会を開催した。(財務特別委員会担当)
テーマ：「“老いと死” 老化に関わる最新研究」
令和 4 年 11 月 11 日 (金)
会 場：川崎生命科学・環境研究センター／ライブ配信
参加者合計 143 名 (会場 65 名、オンライン 78 名)
- (2) 第 10 回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)
テーマ：「創薬研究のためのヒト化動物最前線」
令和 4 年 11 月 18 日 (金)
会 場：鳥取大学医学部記念講堂
参加者合計 112 名
- (3) 第 17 回実験動物管理者等研修会を開催した。(実験動物管理者研修制度委員会担当)
令和 4 年 8 月 5 日～29 日オンライン開催 (オンデマンド配信)
参加者合計：179 名 (会員 42 名、維持会員団体職員 26 名、非会員 111 名)
- (4) 動物実験の外部検証：令和 5 年度の実施準備に向けた事前説明会を開催した。(人材育成委員会担当)
令和 5 年 1 月 27 日 お茶の水ソラシティカンファレンスセンター／ライブ配信
参加合計：191 機関、471 名
- (5) 第 72 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。
会 期：令和 7 年 5 月 21 日 (水)～23 日 (金) (予定)
会 場：名古屋市国際展示場 ポートメッセ (名古屋市金城ふ頭) (予定)
大会長：長尾静子 (藤田医科大学)